

氏名	福本良之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4363 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 医療訴訟における「医師の説明」に関する研究

論文審査委員 教授 許南浩 教授 片岡仁美 准教授 木浦勝行

学位論文内容の要旨

医療訴訟の認容率（患者側勝訴）が 2000 年の 46.9%から 09 年には 25.3%に低下している。このことは、挙証が困難だという事情を考慮しても、訴訟によらなくても解決できたケースも存在することを示している。さらに、原告の提訴理由の一つが「事実を知りたい」ということを考え合わせると、有効な医師の説明に医療訴訟回避の可能性を認められる。本研究では、訴訟回避を一つの目的として、原告（民事）の逐語録を分析した。訴訟化への要因として①想定外の悪い結果（原告の主観的判断）②事後説明の不備③添加される要素（経験と関与者）が認められた。さらに、想定外の悪い結果が生じると、時間の経過とともに、原告は関与者の存在によって医師に対する不信感を増大させていく。従って、医療訴訟の回避と、医師への不信感を払拭するため（医師と患者間の信頼関係を再構築する）には、「想定外の悪い結果」が発生した場合、医師による速やかで真摯な事後説明が重要になってくるのである。

論文審査結果の要旨

医療訴訟の認容率（患者側勝訴）が低下傾向にある。この要因には挙証の困難さに加えて、患者さんの「事実を知りたい」という強い思いが契機になっている可能性がある。そこで福本良之氏は、4 事例について患者側代表者と詳細な面談記録を作成し、逐語録を分析することによって訴訟化の要因を探った。その結果、1) 想定外の悪い結果（原告の主観的判断）、2) 事後説明の不備、3) 添加される要素（経験と関与者）、が重要であることが明らかになった。患者の不信感は時間と共に増大していく。従って福本氏は、訴訟を回避し医師への不信感を払拭するには、「想定外の悪い結果」が発生した場合、医師による速やかで真摯な事後説明が重要であると結論した。

予備審査委員会は、本研究が事例の選択、分析方法の客観性、結論の新規性等について一定の問題を孕みながらも、現場の医師にとっては有益な知見であると判断した。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。